令和4年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

可児市教育委員会

1　調査の概要

（1）調査の目的

・全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため，児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより，教育の結果を検証し，その改善を図る。

・可児市教育委員会，学校等が全国的な状況との関係において，自らの教育の結果を把握し，その改善を図る。

＊本調査の結果は児童生徒の学力の特定の一部を示すものであり，この結果のみで児童生徒の学力の全体を判断できるものではありません。

（2）対象学校・児童生徒

① 可児市内全公立学校　【１１小学校（６年生）　５中学校（３年生)】

（3）調査内容

① 教科に関する調査（国語，算数/数学、理科）② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

（4）調査日　令和４年４月１９日（火）

2　可児市における調査結果の概要

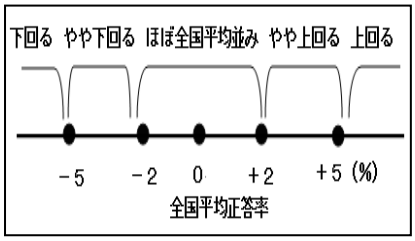
（1）教科に関する調査結果の分析の概要

○ 小学校は，国語・算数・理科ともに全国平均を下回りました。

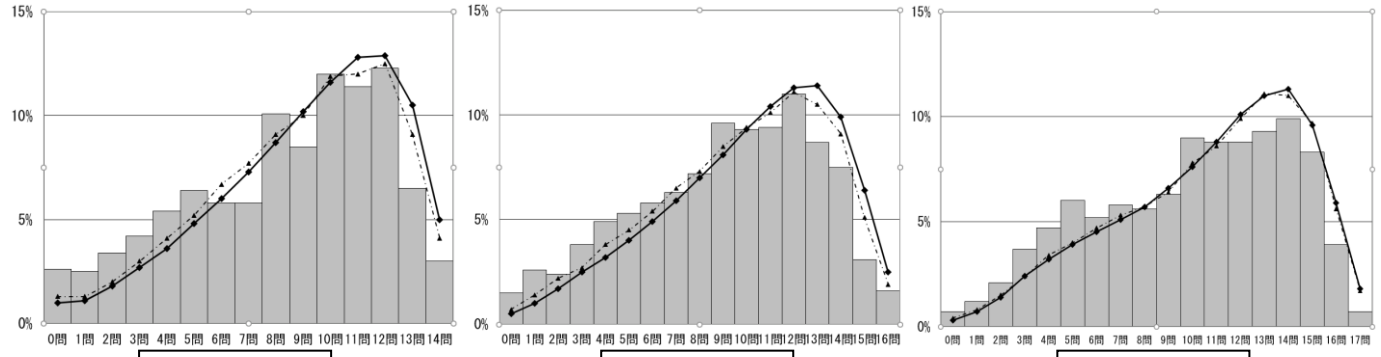
○ 中学校は，全体的にはほぼ全国平均並みでした。

・中学校国語は，全国平均をやや下回りました。

・中学校数学・理科は，全国平均並みでした。



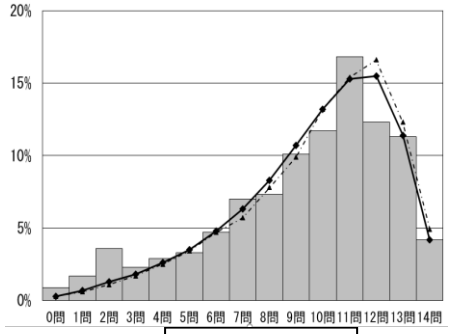
○ 正答数の分布　可児市　…▲…岐阜県　全国　横軸：正答数　縦軸：割合



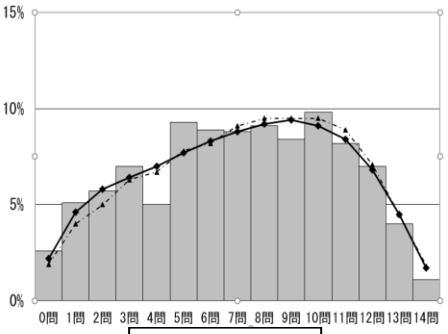
小学校：国語

小学校：算数

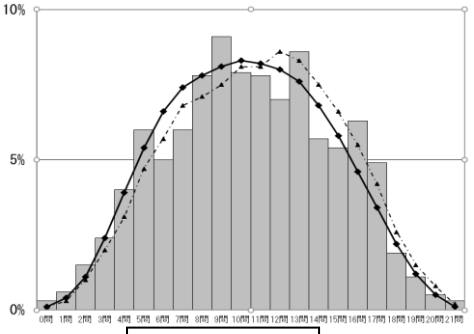
小学校：理科



中学校：国語



中学校：数学



中学校：理科

・小学校はどの教科も正答数が少ない児童の割合が高い。また，正答数の多い児童の割合は低い。

・中学校はどの教科も全体的に正答数の割合は，全国・岐阜県とほぼ同じである。
国語については正答率が平均より少し高い生徒の割合がやや低い。

○　各教科の結果概要からみた課題

［小国］　「書くこと・読むこと」に関わる設問に対する正答率の全国比が昨年よりも下がっている。

［小算］　記述式の設問に対する正答率が低い。※小学校ではどの教科においても，記述問題に対して解答をしなかったり，解答を書くことを途中であきらめたりした児童の割合が全国の割合よりも多い。

［中国］　「書くこと・読むこと」に関する設問の正答率の全国比は昨年より上がっているが，「話すこと・聞くこと」に関する設問の正答率の全国比は昨年よりも下がっている。

［中数］　４領域の中で「数と式」の設問に対する正答率が全国と比べ最も低い。

○　課題となる特徴的な設問

（「　」内は，設問の概要や出題の趣旨　（　　）内は，学習指導要領の内容・領域：評価の観点）

［小国］　「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」（読むこと：思考・判断・表現）

［小国］　「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」
（言葉の特徴や使い方に関する事項：知識・技能）

［小算］「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」（変化と関係：知識・技能）
［小理］「メスシリンダーという器具を理解している」（粒子を柱とする領域：知識・技能）
［中数］「自然数を素数の積で表すことができる」（数と式：知識・技能）

＜課題解決への手立て＞

□ 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得

国語では小中ともに,特に,言葉の特徴や使い方に関する知識及び技能の習得に弱さがみられました。漢字や語句の意味に注意しながら、学習の感想や振り返りを書いたり、日常的に日記や作文を書いたりする機会を多くし，基礎的・基本的な知識及び技能の定着をさらに図ります。また小学校ではどの教科においても記述式の問題に対して弱さがみられたので，課題に対して自分の考えを書く機会を多くしていきます。

小学校理科では実験や観察で必要な器具を選択したり，そこから得られた結果を適切に記録したりすることを通して基礎的・基本的な知識および技能を身に付けさせます。

□ 主体的・対話的で深い学びのある授業の充実

中学校国語では,「話すこと・聞くこと」に課題がありました。仲間と関わりながら，図鑑や本，新聞やタブレット等を使って調べ，考察し，いくつかの情報を関連付け根拠を明確にして記述したり，説明したりする活動に加え、互いの話を聞き合って質問や助言をする場面を意図的に作ることで，問題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等をさらに伸ばすような授業改善を図ります。

（２）児童生徒質問紙に関する調査の分析の概要

各質問項目に対する回答の割合は，ほとんど全国平均並みでした。その中で，全国平均と比べて,「回答1「当てはまる」回答2「どちらかといえば当てはまる」が，全国平均より特に高かった(低かった)項目及び全国比が昨年よりも特に伸びた(下がった)項目について，以下に示します。　数値：1+2 の割合(全国比)［全国比の R3 比］

質問内容	小学校	中学校
【自己について】		
・自分には，よいところがあると思いますか	75.7(-3.6)[-5.1]	80.1(＋1.6)[-4.2]
・難しいことでも失敗を怖れないで挑戦していますか	67.8(-4.7)[-2.8]	72.1(+5.0)[+1.3]
【学校生活・学習について】		
・５年生(中２)までに受けた授業で，PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。	56.2(-2.0)[+13.8]	41.8(-9.1)[+2.8]
・あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い，互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか	78.0(+4.5)[+1.3]	86.0(+9.2)[-5.4]
・国語の勉強は好きですか	48.6(-10.6)[+0.6]	62.8(+0.9)[+6.3]
・算数(数学)の勉強は好きですか	61.1(-1.4)[+2.7]	63.5(+5. 4)[+4.1]
・国語の解答を文章で書く問題全てを最後まで書こうと努力した	70.8(-7.2)	75.6(-1.7)
・理科の授業では自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	81.2(+3.2)	71.7(+7.2)
・読書は好きですか	76.6(+3.5)	73.0(+4.8)
【地域とのかかわりについて】		
・今住んでいる地域の行事に参加していますか	62.4(+9.7)[+0.5]	54.9(+14.9)[-3.8]

昨年同様にほとんどの児童生徒は,「自分にはよいところがある」と認識していますが，全国比は昨年よりのやや低くなっており，活動に制限の生活の中で個々の児童生徒を認める場が少なくなっていることが要因と考えられる。「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか」に対して児童のポイントが低くなっているのも同じ要因と考えられます。コロナと共存しながら子どもたちの活動を工夫し保障し，認める場を増やしていきたいと思います。

理科の授業では、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答した児童生徒の割合が小中ともに全国平均よりも高く、特に中学校ではそれが学力にも繋がっていると考えられる。

家庭では昨年同様に地域の行事に進んで参加できる児童生徒が多く，家庭，地域が一体となって個に寄り添う支援がなされていると考えられます。

学校生活では、仲間と関わり合いながら自分たちの生活をよりよくしていこうとする主体的な姿がみられます。学習面ではタブレット等 ICT 機器の活用が進み，それが国語・算数(数学)が好きと感じている児童生徒の増加につながっていると考えられます。引く続き ICT 機器を使って調べたことをまとめたり，意見を交換や発表したりする活動を一層進めていきます。

３　全国学力・学習状況調査の活用について

・本調査において，正答率が低い問題については，市全体で課題を共有し，全職員の共通理解をもとにして，日々の授業改善に取り組みます。
・各小中学校においては，これまでの全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに，主体的・対話的で深い学びが授業の中で行われる協働的な学習をさらに充実させます。また，わかる喜びや学ぶ楽しさを実感できるよう評価を工夫し，個々の学習状況や定着状況を見届けるなど，きめ細かな指導の充実に取り組んでいきます。